「マーケットの浅読み・と読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

74747474747474747474747474747

♦ No.0466

18/01/17

【 2017年の為替は「ドル中立」を予想 】

昨年末にかけて、当レターではトータル3回、今年の為替市場に関する見通しなどに関してレポートしてきたが、今回は、恒例である「年間変動率」を参考にしたドル/円相場の今年一年の見通しについて、報じてみたい。これまで報じてきた見通しから、なにか変わった点などはあるのだろうか?

◎「中立」予想でも年内に 120 円レベル到達の公算、「年間通した荒れ相場」を期待

当レターでは過去に何度もレポートしている「年間変動率」だが、改めて最初に簡単な説明を試みたい。 過去 1 年間の相場変動をデータ化したもので、ドル/円の平均変動はおよそ 17%になる。さて、そんな状 況下、今年の為替市場の寄り付き価格は筆者が参考にしているデータでは 112.65 円レベルであった。これを基準価格とし、今年も平均で先に挙げた 17%の価格変動が予想されることになるわけだ。

そして、今年のオープンレート 112.65 円に平均変動率である 17%を単純に掛け合わせてみると、仮に一年を通して一本調子のドル高が進行した場合の高値メドはおよそ 131.80 円で、逆に一本調子にドル安が進んだとすれば安値は 93.50 円となる。

今年の年初に発表された著名ストラテジスト、バイロン・ウィーン氏(米ブラックストーン)恒例の「びっくり 10大予想」において、「ドル円は 120 円もありうる」とされていたが、「理論」的にドル/円は年内に 120 円どころか、それ以上のドル高レベルをつけても、まったく不思議がないのかもしれない。

ーー上記したものは通常のオーソドックスな分析になるが、ここからが過去にもレポートしているオリジナルな「斎藤流」の年間変動率だ。いまー歩踏み込んでさらに詳細な見通しを考えてみたい。

過去の変動率のデータを、最初に(1)「ドル強気相場」と(2)「ドル最強相場」、(3)「ドル弱気相場」と(4)「ドル最弱相場」、(5)「中立相場」ーーという5段階に分類してみる。紙幅の関係もあり、上記5例の算出方法や詳細な分類については省くけれども、それからすると(1)の「ドル強気相場」の年は年初寄り付きを基準に平均でドル高方向におよそ12%、ドル安方向に同じく6%ほど動くことが判っている。同様に以下で、(2)から(5)について算出した過去の平均変動幅をもとに、今年のドル/円相場のドル高値と安値を予想してみた。以下がそれになる。(基準レートは112.65円を使用)

- (1);「ドル強気相場」;ドル高方向に 12%、ドル安方向に 6% ーードル高値 126.17 円、ドル安値 105.89 円
- (2):「ドル最強相場」:ドル高方向に 17%、ドル安方向に 1% --ドル高値 131.80 円、ドル安値 111.52 円
- (3);「ドル弱気相場」;ドル高方向に5%、ドル安方向に11% --ドル高値118.28円、ドル安値100.26円
- (4):「ドル最弱相場」:ドル高方向に 2%、ドル安方向に 15% ーードル高値 114.90 円、ドル安値 95.75 円
- (5):「ドル中立相場」:ドル高方向に8%、ドル安方向に9% --ドル高値121.66円、ドル安値102.51円

そうしたなか、筆者は相場を取り巻く様々な材料などを踏まえたうえで、今年の相場について(5)の「中立」 見通しをメインに考えている。つまり、基準レートを中心に上下ほぼ均等に動くのではないか、と予想して いるのだが、当然のように相場には多少のオーバーシュートやアンダーシュート、誤差が生じやすい。そ れを改めて考慮すると、今年のレンジは「中立相場」の(5)に若干の手を加えて、狭ければ「105-120 円」、 広くとれば「100-125 円」と考えられそうだ。

なお、今年の注目材料のひとつである「米中間選挙実施年」について、過去の「年間変動率」を調べてみると、「動くか動かないか、両極端になりやすい」 - という傾向がうかがえる。前述したように、過去の全平均では「17%」程度の変動率なのだが、それが「米中間選挙実施年」だけに限れば、「25%」を超えたケースも過去に 5例(1990年や1998年など)ある反面、「変動率10%以下」となった2006年のようなケースも数例観測されていた。

昨年が歴史的な小変動に当たったこともあり、今年の相場について筆者は前者、「よく動く一年」だと思いたい。そんな「思い込み」に立てば、年間レンジは広くとった「100-125 円」をメインイシューとしたいところなのだが、果たして結果は如何に!?(了)

VAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVA

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

 $\diamond \diamond \diamond$

Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



